

聖書日課 『からし種』 2024.4.28—5.5

<p>4月28日 (日)</p> <p>箴言 11章</p>	<p>「正しい人の祝福によって町は興り／神に逆らう者の口によって町は滅びる」(11節)。ソドムとゴモラに十人の義人がいなかった(創 19)、それが問題でこの町は滅ぼされてしまった。私たちにとっても大切なことは「正しい人」になること。そこに注がれる祝福は私たちの町を高くすることを覚え、み言葉に根ざして謙虚に生きる者となろう。</p>
<p>29日 (月)</p> <p>箴言 12章</p>	<p>「無知な者は怒ってたちまち知れ渡る。思慮深い人は、軽蔑されても隠している」(16節)。神がご存じだから、人に侮られても神の愛に包まれて平安でいられるのだと思う。本当に理解してくださるかたがあるという安心の中でこそ、辱められても気にせず、そこから自由にされる。生活の根底を神の愛に置き、強く生きる者となりたい。</p>
<p>30日 (火)</p> <p>箴言 13章</p>	<p>「高慢にふるまえば争いになるばかりだ。勧めを受け入れる人は知恵を得る」(10節)。神を忘れる時に高ぶるのだ。どこまでも自分が正しいとする時争いが起こる。今、世界で起きている戦争も例外ではない。人の助言を受けいれず、高慢になる者は争いになる。勧めを受け入れる人は知恵を得る。神に従い御言葉に生かされる者となろう。</p>
<p>5月1日 (水)</p> <p>箴言 14章</p>	<p>「忍耐によって英知は加わる。短気な者はますます無知になる」(29節)。神と世と半分ずつ仕えていこうとしても無理である。おのれを通して自分本位に生きていこうとすると短気で無知な者となる。忍耐して神からの英知をいただく。ひたすら真実に神に仕え、損をしても、けなされても、正しい道を選びとっていく者となりたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.4.28-5.5

<p>2日 (木)</p> <p>箴言 15章</p>	<p>「相談しなければどんな計画も挫折する。参議が多ければ実現する」(22節)。大切なことを計画して事を起こそうとするとき、自分の意見を通そうとして賛同者だけで計画しても挫折する。多様な考えを持った人たちと話し合うことが大切だ。私たちの立てる計画の最終決定は神の御手の中にある。聖霊の導きが与えられるよう神に祈ろう。</p>
<p>3日 (金)</p> <p>箴言 16章</p>	<p>「痛手に先立つのは驕り。つまずきに先立つのは高慢な霊」(18節)。驕りや高慢な霊とは自己中心のことだろう。気分がいい時だけ聖書を読み、気の向いた時に祈る。なんでも私为中心で、全て自分で取捨選択する。しかし、人間は神のために造られたのであり、現実の苦難にも聞き従っていく信仰の姿勢を持つとき、神の栄光が現れる。</p>
<p>4日 (土)</p> <p>箴言 17章</p>	<p>「乾いたパンの一片しかなくとも平安があれば／いけにえの肉で家を満たして争うよりよい」(1節)。共産党宣言には、物質はすべてのものの基盤であるという意味のことが言われている。聖書はそうは言わない。いっさいの基盤は神である。私たちは、内側が外側を豊かにしていくものである事を知っている。神という基盤を大切にしたい。</p>
<p>5日 (日)</p> <p>箴言 18章</p>	<p>「友の振りをする友もあり／兄弟よりも愛し、親密になる人もある」(24節)。聖書における至高の友情はヨナタンとダビデのものだろう。ヨナタンはサウルを父として尊敬しつつ、神の器として選ばれたダビデに誠実を尽くした。真の友情は、主なる神への信仰において成立するのだろう。逆に、神への畏れを欠いた「友情」は残念ながら「見せかけ」に終わる。</p>